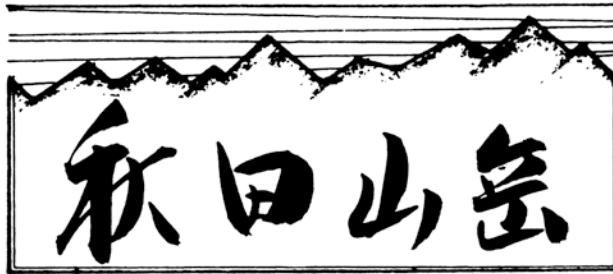


2024



J・A・C



令和6年2月 発行

No. 129

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市土崎港北  
5-3-40 鎌田方

TEL・018-846-8150

発行 秋田支部

編集 鈴木裕子

## ● ● ● 太平山歩道整備 ● ● ●

まんだらめ前岳登山口から

二手ノ又登山口まで 小松芳美

令和五年度の公益的事業・太平山歩道整備事業を令和五年十月二十八日(土)に行った。

前日の雨に続き、天気予報は雨と心配されたが、晴男の鎌田副支部長の登場により、作業に適した好条件となった。

今回は、まんだらめ前岳登山口から二手ノ又登山口までの二・二km、支部での歩道整備は意外にも初の作業範囲だった。

参加者八名が木こりの家入口駐車場に集合し、全員での写真撮影。

鈴木顧問から恒例となったバナナと栄養ドリンクの差し入れと激励をいただき、午前八時に作業を開始した。

刈払い機は鎌田副支部長と小松の二台。今回は私が初めて刈払い機を使用することから、佐藤(博)会員が指導役として後ろに位置し、「刈り込みは、根元を狙って。」などとアドバイスを受けながら刈払い機を操作した。

登山口を覆っていた枝を払う。明るくなって気持ち良い。登山口からお地蔵様のある「地藏流れ四

ツ辻」までは歩道が狭く、笹や木が生い茂っており時間をかけて整備した。

二手ノ又に近づくと再び笹が多くなり、更に気合いを注入し、作業する。

杉林の中を歩くこのコースは、前岳から中岳、奥岳への登山コースであり、近頃はトレランのコースとして注目度が増している。太平山スキー場と並行している箇所もあり、積雪期には前岳や中岳までへ多くの登山者が利用している。今回の作業中、県庁OB等の集団が通過したが、顔見知りの方が「久しぶり。作業、ご苦労様です。」などの声をかけて頂き、激励や感謝を受け、元気をいただくことができた。普段利用者が少ないこのコースを、このように多人数が通行したことにビックリした。

大雨の被害で仁別林道の数ヶ所が崩壊したことで、旭又コースの橋が崩壊し、登山道は通れないことからこのコースを利用しての登山者が多くなったのかも知れない。

午前十一時、無事に出発地点まで戻り、安藤会員から締めめのあい



二手ノ又登山口に至る登山道を刈払う



前岳登山口で作業前に

さつがあり、解散となった。  
参加者 鎌田倫夫 安藤金栄  
佐藤博 三浦昭男 小松芳美  
鈴木裕子  
会員外 戸松好造、熊谷律子

韓国山岳会慶南支部

元支部長・崔在一氏一行来秋 佐々木 民 秀

令和五年十月中旬頃、韓国山岳会慶南支部の城木けい子さん（京都市在住）から連絡があり、元支部長の崔在一氏が秋田の紅葉観光と温泉を楽しみ、久々に再会したいとの内容であった。

慶南支部とは平成二十三年に岩手山交流登山を計画していたが、実施直前になって三陸沖地震で中止となり、その後も会員の動静やコロナ禍で縁も遠くになりつつあり、よって今回は急遽受け入れて、歓迎することにした次第である。

実施にあたっては、かつて交流登山に参加された会員皆様と打ち合わせするにしても、現状では時間的、経費的に無理があり、来秋者が数名から三名になったこととあり、最終的に私が受け入れることとした。また、訪韓の度に特に崔氏にお世話になった今野、鈴木、の両顧問に車の協力をお願いし、一行三名を十一月一日、田沢湖駅に迎え入れた次第です。

乳頭温泉郷はこの時期、紅葉観光で満員であったが、佐藤和志支部長のご厚意で水沢温泉と鶴の湯温泉本陣に宿泊させていただいた。二日は、田沢湖を一周、クニマ

ス未来館、潟分校、かたまえ森林公園からは田沢湖を展望し、たつこ像や御座石神社を巡った。さらに、平成五年に慶南支部一行が宿泊した孫六温泉（現在は閉鎖）を訪ねた。

宿泊の鶴の湯温泉では、韓国には冷泉を沸かす温泉はあるが、お湯の沸く温泉はないとの事で、何度も入浴し、温泉を楽しんでいた。三日は、角館武家屋敷通りを観光し、次の目的地である札幌へ向かう一行を角館駅で見送った次第である。



梁泰順 城木けい子 佐藤支部長 今野 鈴木  
崔在一 佐々木

崔在一氏は七十才、現在、韓国山岳会理事、慶南支部顧問として運営に尽力されており、秋田支部の皆さんによるしくお伝えくださりとのことであった。

尚、佐藤支部長は、翌日に台湾を訪れる予定にも関わらず、水沢温泉での歓迎会に急遽駆けつけてくださった。

崔氏から頂いた韓国山岳会のパングナは訪韓登山に参加した会員にお届けしました。

運動していただいた今野、鈴木両顧問に厚くお礼申し上げます。

山岳古道調査状況

○山岳古道調査オンライン会議

・十一月一日（水）  
古道のまとめ過程での細部の質問応答。

・十二月六日（水）  
古道について細部の質問応答、及び熊野古道山行計画の説明。

出席者 後藤浩二 三浦昭男  
小松芳美

※全国山岳古道調査

日本山岳会百二十周年記念事業調査期間は令和三々令和七年度全国で百二十の古道を調査

高尾山情報 佐々木 民 秀

年次晩餐会の翌日、十二月三日の記念山行（天覧山）には参加せず、高尾山に登った。

高尾山口駅先の清滝駅からケールカーに乗り、高尾山駅へ。ここから舗装道路と階段が続く参道を由緒ある葉王院を経由して人々で溢れる五九九mの山頂に至った。さすが世界一登山者の多いと言われる山を実感し、見向きもされない2等三角点を撫でる。

好天の中、好きな富士山がクツキリと遠望できた事はラッキーであった。

帰りは登山者の少ない稲荷山（四〇八m）を経由し、整備された木道続きの道を清滝駅に下山した。（ゆっくり一周三時間）。

午後二時を過ぎているのに紅葉見物に登る人々で清滝駅前には溢れかえっていた。この日の登山者は八百人くらいか？

感想

・二十代から四十代台が圧倒的に多く、後期高齢者は極端に少ない。  
・家族、グループ、単独者多し、八十歳以上は極小で、最高齢八十九才。表参道はスニーカー類多し。  
・ケガ人が多いためか、山頂に消防隊員が常駐。山頂の樹木が高く、眺望を阻害している。  
特に稲荷山山頂は不良。

令和五年度年次晩餐会に参加して 鈴木裕子

令和五年十二月二日(土)午後五時から新宿区京王プラザホテルで令和五年度の年次晩餐会が開催された。(会報「山」十二月号参照)私は、コロナ過で中止されていた期間も含め、四年ぶりの出席、全国からの出席者は三三五名であった。かつては七〇〇名を超えることもあったなあと思った。

橋本会長の挨拶に始まり、物故会員への黙祷、永年会員紹介、新入会員の紹介と続き、最年少中学生一年生の新入会員の挨拶には大きな拍手が沸きあがっていた。

鏡開きの後、乾杯の発生は古野前会長、天皇陛下からのお言葉の紹介があったが、陛下のご出席が無く、寂しく思った。旧知の方々の交流は皆久しぶりで、元副会



長の神崎さん、青森支部の高橋豪さん等、来年も元気で会いましょうと約束をした。山岳古道調査矢島街道を担当している本会の高橋潤一氏にお会いすることが出来た。開催に先立ち記念講演会や展示会、図書交換会も開かれたが、例年より規模が縮小されたようにも思った。

展示された写真の中で、晴天のエベレスト登山の様子は、山頂を目指す商業公募隊の登山者が列をなして渋滞している様子が驚いた。



展示写真をコピー

翌三日は、記念山行には参加せず、佐々木・鈴木は高尾山登山。佐藤(博)は息子さんと御岳山登山。今野は所用で帰秋した。

出席者 佐々木民秀 今野昌雄  
鈴木裕子 佐藤博  
写真上 新入会員紹介

太平山八宗山域でのラッセル訓練 小松芳美

私は、他支部で行っている「〇〇訓練」や「〇〇学習会」などの会報記事を読み、当支部でも真似事でもいいからやってみたくと思った。

そこで、太平山前岳付近にも雪が積もりはじめ、本格的な冬山になる前に「ラッセル訓練」の前に下見登山を計画した。

そもそも、八宗山域には登山道がなく、雪山にはほとんど足を踏み入れる人がおらず、かつ秋田市街から近く訓練には最適である。

十二月十日(日)午前八時、金山滝駐車場に訓練希望者五人が集会した。天気は曇天ながら気温が高く、登山には概ね適している。私から、過去に歩いた軌跡が載った地図を配布し、簡単な説明をする。要点は、◎状況によっては撤退を躊躇しない。◎先頭を交代すること、◎リーダー感を体感すること、◎地図、コンパスやGPSなどを使用する。現在地と進行方向などを確認する。など。

コースは、金山滝上部にある「八宗神社」脇から東方向の杉林に入り、尾根伝いに北東進する。最初の急登で一汗かき、尾根到達で衣服の調整のため休憩。この当たり

は山菜採りなどの入山者がいるのか、踏み跡がうっすらと確認できる。行程の二〇地点で八宗神社から沢経由で登るコースとの分岐に到達。(といっても、藪の中で道もなく、過去に付けたピンクテープが目印。さらに、藪の尾根を進み行程の三分の二地点で、八宗山の石碑に続く分岐に到達。ピンクテープでマークする。

この先が、このコースのメインイベントである急登が続く。笹竹をかき分けながらも、距離を保ち竹の跳ね返りを予想しながら進む。「もう限界」と思ったところで、歩道のある「九番の石像(観音)」に到達。出発から一五〇分

このコースは、藪漕ぎしながらルートファイディングするもので、夏道とは違い冒険心が若干くすぶられるものであった。さらに前岳に進み、当支部の名が記載された標柱とベンチ付近で昼食とした。ゆったりと下山し、午後一時十分に駐車場着。



参加者 鎌田倫夫  
小松芳美  
高橋雄悦  
会員外 戸松好造  
熊谷律子

支部連絡会議報告

鈴木裕子

「支部連絡会議」は晚餐会に先立ち、十時三十分から京王プラザホテル四階会議室で開催。所用で出席できなかった佐藤和志支部長の代理で出席した。

各支部から五十一名と会長及び役員十五名の参加であった。会議は議題に従って進行。

一、会長挨拶では、会長に就任してから支部で開催される各集会には積極的に参加している。日本山岳会は支部活動によって支えられていることを認識した等のお話であった。

二、グーグルワークスペースの活用について(永田副会長)

共用ドライブを使用している情報交換については、会員個人個人にアドレスを振り分け、会報等の電子配布を考えてゆく。

支部長、事務局長及び本部事務局のみアクセスできる共用の保管庫を作成して、名簿や支部の重要書類を保管する。新年度からの実施を予定している。

三、収入確保の施策

①会員数維持、増加の施策

②準会員制度の見直し

③令和六年度の新入会員の獲得目標。これはオンライン会議等で審議されているものと同様の内容。

④収入確保の施策として、寄付募集の広報活動(遺贈を含む)に力を入れる。

四、コスト縮減について  
会報「山」の電子配信、クラウドから各自ダウンロード方式、会報発行回数の削減等、入金金の減額、永年会員からの会費徴収等は、

会報一七八号で報告されているオンライン会議で討議されたこととほぼ同様であった。

五、熊野古道集中山行について  
五月十八日から十九日に行う。大斎原に集中後、紀伊勝浦にバスにて移動し、宿泊懇親会。

費用は各自負担。

◎会報「山」の電子配信について  
寄せられた意見等の要点。

○北海道支部からの意見

多種多様な雑務を抱えている支部事務局で、電子配信の中継は不可能。会報のボリュームが大きく、送受信が難しい。パソコンを持つていない会員が多く、実現性に疑問を感じる。

○越後支部からの意見

基本的に賛成であるが、現時点で支部会員年齢層や会員の気持ちから理解は得られないと思う。パソコン(スマホ)を日常的に使用しない会員が八十名程。支部業務として会員のメール管理やトラブル対応の業務が増大する。

一斉メールでなくホームページからのダウンロードが現実的である。高齢会員の多くは、毎月送られてくる会報「山」が唯一の会員サービスである。

○石川支部からの意見

共有ドライブや電子配信、クラウドからの各自ダウンロードを含め、現状以上のIT活用には反対です。高齢化によりパソコンやスマホを所持しない、所持していても使えない会員が支部員の大半である。支部としてもメール配信しているが、見ていない、見られない、の一方通行の状態。

○京都滋賀支部の意見

会報をタイムリーに会員へ中継することは不可能。クラウドから各自ダウンロードも、対象者を明確にする手段、対象者の変更管理等に問題があると思う。

会報の隔月発行は、情報発信サイクルが延びるので無条件で容認できない。新入会員等会員異動は支部運営上の重要な情報である。

久しぶりに支部連絡会議に代理出席したが、赤字解消、財政云々、という説明や討議に「平成二十四年の公益社団法人に移行する際に、公益社団法人に移行すれば、今後日本山岳会は財政的な苦勞もなく、政府の保護の下、憂いは無い」と説明されたのと思ってしまった。

会員の動静

退会 安藤金栄(令和五年十二月)

オンライン会議

令和六年一月十七日(水)午後七時から。

・令和六年度の事業計画について各支部の主たる活動目標を記入する。

・支部予算書及び会計報告作成事項についての注意、説明。

特に記載漏れ・領収書が添付されていないのに決算書に記載がない。また記載されているのに領収書がない等。

出席者 小松芳美

会務報告

事務局会議

○一月十九日(金)午後一時から、秋田市泉コミセンで開催。

・令和六年度事業計画について  
・役員会に提案する役員改選について

・新年度役員の事務分担について  
・熊野古道集中山行について

出席者

鎌田倫夫 後藤浩二  
三浦昭男 小松芳美  
高橋雄悦 鈴木裕子